

西角友宏第1回インタビュー前半：  
中学時代までの生き立ち

江藤 学  
生稲 史彦  
金 東勲  
木村 めぐみ  
中村 彰憲  
嶋原 盛之  
清水 洋  
山口 翔太郎

IIR Working Paper WP#18-22

2018年2月

Tomohiro Nishikado, Oral History (1st, 1):  
Personal History until Junior High School Days

Eto, Manabu : Ikuine, Fumihiko : Kim, Donghoon  
Kimura, Megumi : Nakamura, Akinori :  
Shigihara, Morihiro : Shimizu, Hiroshi  
Yamaguchi, Shotaro



Hitotsubashi University  
Institute of Innovation Research



ゲーム産業生成における  
イノベーションの分野横断的なオーラル・ヒストリー事業  
EMERGENCE of Industry,  
An Oral Historical Research Project focusing on Game Industry



西角友宏第1回インタビュー前半：中学時代までの生い立ち

江藤 学  
生稻 史彦  
金 東勲  
木村 めぐみ  
中村 彰憲  
嶋原 盛之  
清水 洋  
山口 翔太郎

Tomohiro Nishikado, Oral History (1st, 1): Personal History until  
Junior High School Days

Eto, Manabu  
Ikuine, Fumihiko  
Kim, Donghoon  
Kimura, Megumi  
Nakamura, Akinori  
Shigihara, Morihiro  
Shimizu, Hiroshi  
Yamaguchi, Shotaro

## 目次

幼少期：両親、兄弟	3
小学生時代：環境	6
小学生時代：遊び方（貸本屋、TV）	7
小学生時代：先生、学校の規則	9
小学生時代：貸本屋、紙芝居	11
小学生時代：ラジオ、外遊び、委員長	13
中学生時代：笛を吹く（だんじり）	15
中学生時代：地域特性	17
中学生時代：遊び方（漫画の貸し借り）	18
中学生時代：遊び方（映画）	20
中学生時代：遊び方（ラジオ作り）	21
中学生時代：成績・高校進路	23
中学生時代：ラジオ作りなどの情報入手、ラジオ作り（ハンダ付け）	24
中学生時代：メインカルチャー（漫画かラジオか野球か）	26
中学生時代：部活	27
中学生時代：漫画をやめて、ラジオ作りに	28

## 幼少期：両親、兄弟

Q：まずは1944年3月31日生まれとお聞きしていますけども、幼少の頃からの話をお伺いしたいんですけども。大阪府の岸和田にお生まれになった時の話ですね。特に小学校、小学校に上がる前ぐらいからですかね。どのくらい、記憶がどのくらい戻れるかっていうのもありますけど。

西角：そうですね。私、幼稚園行ってないんですよ、小学校からなんで。その前も家は、うちの父はですね、大工道具を修理したり、のこぎりの目立てをしたり、そういう職人だったんですよね。小さい頃から、そういう職場見てたんで。あと、うちの父はどっちかという新しい物好きかどうか知りませんが、ラジオとか、あんまりその当時なかったような蓄音器とか、そういうのが結構好きだったんで。そういうのを子どもの頃はちょっといじったような記憶は残ってますね。レコードをかけて、蓄音器を自分でかけたというのを、よちよち歩きの時と聞いていましたので、2歳ぐらいの時ですかね。それぐらいが一番ぼんやりとした記憶ですね。

Q：お一人ですか、兄弟は。

西角：兄弟はね、4人なんです。姉が2人と弟が1人ですね。結構、上と下、離れてまして、一番上の姉がちょっと生年月日はよく分かんないですけど、今、大体80前ぐらいか、80ぐらいですかね。2番目は76でしたかね、で、私が72ですから、弟が65かそのぐらいですね。ちょっと下が十何歳ぐらい、15歳ぐらいですかね、離れてて。昔はそういうようないちが多かったんですね。

Q：よく仲良く遊ばれたとか、そういうことはあるんですか。

西角：上の姉は結構離れてるんで。2番目の姉とは遊んだ覚えはありますが、一番あれだったのは弟とは結構離れてるんですけど、遊んだ覚えはありますね。

Q：それ、どういった遊びだったんですかね。

西角：どういう遊び……。やっぱ友達のほうが多かったんですけど、兄弟で遊んだのは……。何をして遊んだか、ちょっとよく……。トランプぐらいして遊んだんですかね。昔のビー玉とかそんなのありましたけど、そういうのはあんまり弟と遊んでない。ちょっと年代が違うっていうか、年が違うんであんまり遊べないんで。遊ぶというよりもお守りをし

てたっていう感じ、そんな感じで、一緒になって同じ対等に遊んではしなかったかと思いますが、7つ離れてるので。

Q：お父さまが大工道具を作っていたら、その仕事場にはよく行かれたんですか。

西角：仕事場、そんな広いじゃないんで、仕事場があつて、玄関を入ったところが仕事場ですから、そこはのぞいたりしてやりましたね。

Q：どういうふうなお父さまだったんですか。

西角：うちの父はね、学校も出てないんですよ。自分的には小学校が中退だとか言ってましたから、学校出てないんで。職人ずっと一筋でやってたんで、だから逆に勉強っていうんですかね、には、結構厳しかったですよ、勉強しろ、勉強しろっていう、うるさい大工道具職人でした。自分と同じようになってもらいたくないっていうのもあったんですけども。

Q：お母さまはどんな方だったんですか。

西角：うちの母はね、ほんのちょっと自慢になるんですけど、一応、東京の師範学校を出てるんですよ。地元は四国なんですけども、小学校の先生をやった、結婚する前でしょうね、してたというんで。どっちかというとな高学歴ですよ。ちょっと異様なカップルなんですけども。

Q：お父さまが大阪のご出身なんですか。

西角：父はね、違うと思うんですよ。私もよく分かんないんですけど、広島だったと思いますね。どこで生まれたかは、あんまり子どもの頃、親のことあんまり話したことないんで、その細かいところの親のいきさつはよく分かんないんですけども。ですから、父の、私にしたら、おじいさんですよ、父の父ですよ、亡くなってたんでもうよく分かんないし、母親はいわゆる私の祖母ですよ。祖母は私が子どもの時はまだいましたけど、顔は覚えてるけども、あんまり話した覚えもないくらいなんで。ちょっと親戚とかその辺の付き合いとかは、そんなに密じゃなかったように思ってますね。

Q：ずっと大阪に皆さんいらつたという感じではないんですね。

西角：じゃないですよ、はい。わりと職人なんで、職人っていうか転々としてて。堺っ

ていうとこ、堺市、岸和田に来る前は堺市にいたという話を聞いてますね。その前はちょっと私も分からないんですけども。私はまず岸和田で生まれたんで。その前は堺のほうにいたようなこと言ってましたね。

Q：お父さまからよく勉強しろと言われて。

西角：小学校の時はね。中学校は言わなかったけど、小学校の時は特に言われましたね。

Q：お母さまからはいかがだったんですか。

西角：母親はあんまり勉強しろと言わなかったですね、逆に。

Q：逆に。

西角：ええ。どっちかっていうと、遊べとは言わないけども、自分の好きなことをやっていいよという感じで。いわゆる教育ママではなかったですね。

Q：長男だから何とかっていうことはないんですかね。

西角：そうですね。長男だから、一応期待はしてたと思いますね、父親も。ちょうど女、女ときて男なんで。その当時はまだ男のほうが、男の子の長男っていうのは重要視、重要とされたんで、それは確かにあったかもしれませんね。

Q：子どもの頃の夢は「漫画家になる」であったと、どっかでちょっと拝見したんですけど。

西角：夢はころころ変わってるんですけどね。中学校ぐらいの時は一応漫画を、友達と。友達、漫画のうまいやつがいてね、そいつと一緒に友達になって漫画を描き始めて。描き始めると、やっぱり漫画家になりたいなと思いましたよね、最終的には。その時、いつときぐらいというか、中学の頃は、そう、確かに漫画家になりたいなと思ったことありますね。

Q：じゃあ、中学校の話なんですね。

西角：ええ。

## 小学生時代：環境

Q：小学校の頃はどのようなふうにといいか、どのようなふうな子どもだったんですかね。

西角：小学校はわりと、うちのおやじが模型とかああいうのが好きだったんで、電車の模型ですね。そういうおもちゃ、おもちゃっていうんですかね、そういうのではよく遊んでました。だから、電車の運転手になりたいと思ったこともあったと思います、一応凝ってたんで、電車には。小学校の時はわりと親父がそう言ったんで、勉強、勉強ばかりやって成績はかなり良かったと思いますね、小学校の時は。自分でもそう思って、親も将来は博士になるかなぐらいいは言ってたという、近所に言ってたというあれもありますからね。まあ確かに勉強はよくしたんで、小学校の時は成績は良かった。

Q：何が好きだったとかあるんですかね。

西角：算数とかそういうのは好きだったように思いますね、やっぱり。ちょっと学科覚えてないけども、体育とかね、音楽あたりは苦手だったような気がしますね。

Q：周りは、小学校に行かれていたときの周りの環境っていうんですかね、どのような子どもたち、どのような友達が多かったとか。

西角：あの頃はまだ戦争終わってそんなに経ってませんよね、みんな貧乏だったんですよ、そんなお金持ちなんていなかっただろうし。もちろん職人ですから、サラリーマンよりかはそんな金持ちじゃないけど、収入はよかったですよね。けども、周りはやっぱお金ないんで学校も行けない子とか、結構まだいましたね。昔やっぱり食べ物のせいなのか何のせいなのか分からないけど、身体障害者みたいな人が、子どもが多くて。私の友達にも何人かいたんですけども、そういう環境、あんまり今から考えられないような、ちょっとそういうような昭和のその時の環境でしたね。給食は確かあったように思うんですけども、途中から、1年ぐらいの時は給食もなかったですよ。牛乳缶、ほら、牛乳っていう、進駐軍の来た、脱脂粉乳みたいなああいうのをミルクみたいに飲んだぐらいで、給食というのは3年ぐらい、小学校3年ぐらいからですかね、給食っていうのが出たんで、それまではなかったです。だから、みんな、お昼ご飯食べない子なんていっぱいいましたよね。みんな、貧しい生活をしてましたね。

Q：その中でも比較的裕福ではあられたんですかね。

西角：比較的には、職人やったんだから、あんまりお金に困ってるというような雰囲気は、

子どものころはなかったですね。

## 小学生時代：遊び方（貸本屋、TV）

Q：小学校の時はどういう遊びをお友達とされてたんですかね。

西角：今はあれですけど、メンコって知ってます？

Q：知ってます。

西角：メンコって関西では「べったん」っていうんですけどね。あれをこういうものにして、バーッと倒して、ひっくり返して取り合いするの。それとか、あとビー玉、今でもビー玉ありますよね。あれをぱらぱらっと並べて、相手が「これ、当てろ」とか言うと当てて、うまく当たればそれを全部もらえとか、そんなような、近所のガキ大将を中心にそういう遊びを、その地域だけでね、遊んでましたね。メンコでしょ。あと、こういう釘を刺して、五寸釘ぐらいの釘を刺すんですよ、地べたに、それで陣取りゲームをしたり。大体、なんか物を賭けてやりましたね、賭けるっていうか。そのほうが、何て言うんですかね、スリルがあるというか。

Q：どんなものを？ おやつみたいなものを賭けるんですか。

西角：いや、釘だったら、また、釘を。釘持っててもしょうがないけど、ビー玉だったらビー玉取っちゃう、めんこだったら全部めんこ取っちゃうとか。釘の時はちょっとどういう賭け事したか分かんない。取りあえず、そういうもので取り合いをするというのありましたね。

Q：じゃあ、男の子は男の子で遊ぶんですか。

西角：そうですね。女の子の遊びはその時分かんないけど、男の子は遊んでましたね。だから、今思うには結構そういうのはゲーム作りには役に立ったかなと思ってますよね。メンコも、べったんも、普通こうやるとひっくり返らないので、ここに油を塗ったり、いろんな細工をするわけ。そうすると、やっぱりガキ大将みたいなのがいるんですよ、1人は。今はいないでしょうけど。そいつが采配して「ここまではいいよ」と決めるわけですね。油塗っていいけど、ろう塗ってもいいけど、角を……。2枚貼るやつとかいるんですよ、2枚貼っちゃ駄目だとか、そういうのは親分が決めるんですよ、その地域のガキ大将。そこは、うちの近辺だけなんですけど、隣の町に行くと、また隣のガキ大将みたいなのがいて、ち

よっと隣の町へ行くと。そこがまた違う、ルールがちょっと違うんですよね、遊ぶんですけど。誰かが言ってきて、あっちはこんな遊びしてるよっていうと、面白いと、じゃあ、そっちのほうが面白いなと思ってその遊びのルールを変えたり、そんなようなことをやって遊んでましたね。

Q：その遊びの中で、小学校といっても長いんで、いろいろな役回りがあるんだと思うんですけど、どういうふうな役回りが多のお子さんだったんですかね。

西角：わりと、ガキ大将じゃないし、地味なほうだったんで。かといって、どっちかというところを研究するほうだったんですね。さっきのメンコだったらメンコ、どれくらい、どうすればいいかっていうので、たぶん、ロウを塗ったり、そういうようなことをやって、周りに教えるというか、コツを教えるというような、そんなような役回りで、あんまり表立ってトップに立つほうじゃなかったですよ。それもなかなか、うちのおやじが勉強うるさかったから、しょっちゅう行けなくて、それで目を盗んでですね。うちは出入り口のところに、おやじがいるんですよ、職場があつて。そこを通っていかないと外へ出れないんですよ。行く時に「どこ行くの?」「どこ行くんや?」って聞かれるでしょ。「いや、ちょっとお友達と勉強の」っぽいような話をして、それで出掛けていって。そんなようにしてるから、そんなに長い間みんなと遊べなかったような気がしましたね。結構、制限、遊ぶのは制限されてましたね。

Q：そうですか。

西角：そうなんですよ、関所があつてですね。入り口に店があつて、おやじがそこに、職人があそこに座ってるんですよ。だから、必ず座ってるから、出て行く時、そこ通らなきゃいけないからね。

Q：厳しいお父さまだったんですかね。

西角：わりと、小学校の時は。中学校、高校になるともう全然違います。小学校の時とはとにかく、子どもの頃はわりと厳しかったですかね。特に勉強することに対してとか、そういうことに対しては。

Q：その頃に、小学校の頃に、みんなが共通で何か遊ぶみたいなものっていうのは何かあったんですか。例えば、まだテレビとかそういうメディアが。

西角：ないですね。

Q：入ってくる前ですから。でも、例えば貸本みたいなものとか、なんかこう。

西角：貸本屋ありましたね。みんなの楽しみは漫画の貸本屋はありましたね、1つ5円か10円ぐらいで。それはよく借りてましたね、貸本屋。漫画の本、貸本屋ですね。唯一楽しみといたら、それぐらいで。あと、おやつといえば、たこ焼きとかお好み焼きみたいなものが街のそういう店で、それこそ1枚10円か20円か、子ども向けの遊び、子ども相手のそういう店があって、そういう所にはよく姉と行った覚えがありますね。だから共通してあれるのは、確かに貸本屋というのがありましたね。あと、それほど面白い遊びってというのは……。あと、海が近かったので釣りをしたり。環境はわりと。今はもう釣り、海まで埋め立てられてるんですけど、海があつたり、山も。山もちょっとあるんですけど、近くにあったんで虫取りしたり。今の子ども、あんまりやりませんが、あの頃、虫取りしたり、何が楽しいのか、トンボ取ったり、セミ取ったりして。なにも食べられるわけじゃないってよく思うんだけど、そんなの取ってましたね。ホタルもまだいたような時代だったと思いますね、その頃は、水もきれいだったし。

Q：1950年ぐらい。

西角：50年ぐらいですね。テレビはずっと、私の中学校の時はなかったですかね、中学ぐらいの……。テレビ自体はありましたね、中学ぐらいの時ありましたかね、電気屋に置いてありました、1台。大体、電気屋に1台あって、みんなでわーっと集まって見るんですよ、その電気屋に行って。1台、当時分かりませんが、10万以上したと思うんですよ。だから、今の価値にすると200~300万はしたんじゃないですかね、そんなだから、普通のうちは買えないですよ、よっぽどお金持ちでないと。テレビも、小学校の時はたぶんテレビはなかったですね。あんまり覚えはないんですけども……。そういうメンコで遊んだとか、そういう覚えはありますよね。

## 小学生時代：先生、学校の規則

Q：学校の先生はどうだったんですかね。結構、厳しいような環境、どういう環境だったんですかね、学校の中は。

西角：学校の先生は覚えてますけど、全部覚えてるんですけど。厳しい先生、男の先生は厳しかったですよね。今は結構問題になりますよね、頭ぶん殴ったり。平気で殴られましたよ、廊下に立たされたり、それこそ、げんこつでは殴らないですけど、平手でビシビシやられましたよね。宿題忘れた子、バケツ持って立たされたり、水入れたバケツ持たされ

たり、そんなようなことで。先生はみんな慕ってましたからね、当時の子どもたちは。先生というと、一応、一目置いてましたから。先生に怒られたら、言われたら、ちゃんと言うことは聞くし、みんな素直な時代でしたよね。小学校の時は、みんな頭は坊主だったんですけど、私だけは長髪だったんですよね。それはなんか母親がこだわって、「おまえ、坊主にしないでいいから」とか何とか言って、なんか訳分かんない。だいたい学校の先生に文句言われたんだけど、うちの母親は頑として言い訳してましたね。だから、ずっと私、みんなあの頃はほとんど、もう 90%みんな坊主だったんですけど、小学校、中学校、高校もみんな坊主が多かったですね。坊主じゃなくて、なぜか髪の毛伸ばしてましたね、写真見ると、みんな。私、昔の写真見ると、私だけ髪の毛伸ばしてました。

Q：師範学校でお母さまは働かれてて、西角さんが小学校に通われている時には。

西角：もう主婦ですよ、ずっと、もうだいぶ前から主婦だったと思いますよ。最初から、すぐ主婦になったんじゃないですかね、そんなような感じだと思います。小学校ぐらいになると、あんまりそんなパツと思出すようなことっていうのは。小学校、そのぐらいしか思い出さないと思うんですよ。そういう時の連中と話しすれば、また、いろんなのが出てくると思うんですよ。同窓会もしてないし、小学校の時の同窓会は。中学の時の同窓会はあるんですけど、小学校の同窓会はあんまりしてないから。小学校は近くにまだありますから、ああ、懐かしい、前を通ると懐かしいなどは思うんですけどね。

Q：小学校はどうですかね。

Q：なんか小学校時代、印象に残ってることは。

西角：小学校の印象ですね……。

Q：映画とか、小さい頃にこんなのを見たのとか何かありますか。

西角：小さい時に印象に残ってるのは、あんまり明るい話じゃない、暗い話なんですけど。戦争が終わってまだあれなんで、野良犬が。1つだけ覚えてる、小学校まだ行ってない時だった。野良犬がまだいたんです、野良犬、犬をこう。それを大人が、ある日なんですけど、棒で頭をポコンと犬を、で、食べるんですよ、袋に入れて持っていったような光景は、それは今でも覚えてるんですよ。すごいなと思って、子どもながら思っていましたね。あと……、子どもはやっぱ石炭の、そういう海へ行くと石炭の山があるんですけど、その石炭を盗みに来る、親が盗ませるんでしょうね。こういう、何て言うんですかね、乳母車、子ども背負って乳母車で石炭を盗みに行くんですけど、そういうのが大人に見つかって、

その子どもが両手縛られて、後ろに。手でこんなに持って、自分の子ども背負って帰っていく姿は覚えてますね。その 2 つだけは、まだ小学校行ってない時だと思う、まだ小さい時だったと思いますけど。うわ、すごいんだなと。今から思えば、すごい時代だったんだなと思いますね。そういうちょっとショックなのは、子どもながら覚えてますね。

小学校入った時は、結構、勉強もわりと無理やり、無理やりかどうか分かりませんが、勉強もしてましたし、成績も良かったし、わりとクラスでも人気者だったんで、そんなに、意外とそういう時だと思いが少ないんですけど、わりと順調に育ったというか、順調に育ったと思いますね。特に大きな問題もなかったし。ただ友達はさっきも言ったように、体の悪い、当時、今でいう小児麻痺みたいなんですかね、そういうハンディキャップのある子どもが多かったんですよ。というのは、うちの母親がそういう子どもと、誰々さん、誰々っているから友達になってやってって、私、そういう子ども 2 人ぐらい、足の動きに障害のある子と、あと耳が聞こえない子、そういう子との友達が何人かいましたね。周りからは優しい子だなど思われたかもしれないですね、そういう。それは母親の言いつけというか、母親がしなさいと言ってやった覚えなんで。そういう友達、今どうなってるか分かりませんが、そういうハンディキャップのある子どもが多かったですね。戦争の影響かもしれないですね、あれも。

## 小学生時代：貸本屋、紙芝居

Q：貸本屋で本を借りたと思いますけど、その中で具体的にいまだに覚えている作品とかはありますか？

西角：ありますね。今どうかしらん、「ロボット三等兵」っていうのがありましたね。

Q：「ロボット三等兵」。

西角：そう、タイトルなんだけど。今、でも、ネットで見りゃまだ出てくるかも、ロボット。何とか、漫画家なんですけど。前谷惟光だったかな、なんかそんなような名前の。それはシリーズでよく借りてましたね。

Q：シリーズで。

西角：ええ。ロボットがね、兵隊なんですよね。それが二等兵じゃなくて、一番ペーパーなんで。そういう結構コミカルな漫画なんですけど、それはよく借りて見てましたね。それ、記憶ありますね、その漫画を借りたのは。

Q：紙芝居とかはどうですか。

西角：紙芝居はありましたね。

Q：どんな？ 見た覚えとか、「黄金バット」とか。

西角：「黄金バット」、あれはポピュラーなんですけど、「黄金バット」っていうのありましたね、そういえば。

Q：それ、やっぱり紙芝居で見た覚えがあるんですか。

西角：紙芝居で見た覚えがありますね。

Q：それはどこで、小学校の？

西角：小学校低学年の頃ですね。近所に自転車で来て、最終的にはお菓子を売るんですけど。お菓子を買わない人はちょっと後ろのほうに行って、買う人は前なんですけど。私ね、お菓子、買わなかったような気がします。あんまり前で見えた……。おいしくなかったかどうかは知りませんが、後ろでずっと見てた覚えがありますよね。

Q：買いたくないお菓子？

西角：いや、お金なかったわけじゃないんだけど、なんかあんまり、あのお菓子食べたくなかったのかもしれないし。そう、そう、そう。

Q：話は面白いんですか。

西角：話は面白かったですね。

Q：なんでガイコツなのに。

西角：そう、そう、そう。

Q：ヒーローだと思ったんですか。

西角：いや、そこがよく分かんないけど。「黄金バット」って、なんかでそんな、ガイコツ

のやつ、ありました。それ、「黄金バット」だったかどうか分かんないけど。

Q：黒い、ブラックバットですね。

西角：今でもなんかそういうあれだけど。ガイコツの何かは出たように思いますけど、それが「黄金バット」だったかっていうのは、ちょっと。あとで「黄金バット」っていう言葉は知ったんで、それと今、結び付けてるだけであって、その当時は「黄金バット」とは認識してなかったですね。ちょっと分かんなかった。

Q：ガイコツのヒーロー。

西角：ヒーロー、ありましたね、そういえば。それとか、大体、ストーリーは子どもが出てきて、どっかに売られるとか、サーカスで売られる、なんかそんなような話が多いですよ、悲劇的な話が。子どもがね、そんなような話があって。あれで最後は続きものになるんですよね。毎日来てなかったような気がするね、2週間に1回ぐらいじゃなかったかね。大体、続きものになってね、いいところで終わるみたいな、大体そうなんですけど。最初にお菓子売って、お菓子を買わないやつは「おまえ、後ろ行け」「あっち行け」とかいろいろと言う、そういうシステムですよ。小学校低学年で、高学年の頃はなかったような気が。あったかどうか知らないけど、でも、見に行った覚えはない。あんまりね、紙芝居、それほど好きで見に行ったわけではなかったような気がしますね。後ろのほうで、ちょっと見てたという記憶ですね。

Q：なんで見たいと思いましたか、当時はなんで見たいと思いました？ 紙芝居を見たい。友達に？

西角：そうですね、友達に誘われてでしょうね。だから、本人自体はあんまり興味なかったと思うんですよ、私自身はそれほど。友達が行って、一緒に見に行ったというか。だから、そんなに毎日真剣に見てるわけではないんで、何回か見たという記憶ぐらいしかないですね。

## 小学生時代：ラジオ、外遊び、委員長

Q：ラジオとかそういうのは聴いていましたか。

西角：ラジオはありましたね。ラジオは、小学校の時はラジオは音楽ぐらい聴いた、親父がよく浪曲を聴いたりしてたんで、そういうのは聴いた記憶はありますけども。あんまり

ラジオのほうは興味なかったような、聴くのはそれほど、小学校の時はなかったような気がしますね。聴いてたと思うんですけど、記憶がちょっとないですね。意外と小学校の時の記憶は衝撃的なのはあんまりなかったし、わりと平凡にいったような感じなんで、そんなに小学校の時の強い印象っていうのはなかったですね。

Q：どちらかという、外遊びと家の中だとどっちが好きだったんですか。

西角：本来、外で遊びたかったんですけど、親が外へ出ていくの嫌がるんで、嫌がる人なんで、家で遊ぶ……ほうが多かった、いや、外のほうが多かったような気がしますけどね。結構、外で遊んでましたね、何だかんだ言って、言い訳を言いながら出て行って。家で遊ぶっていても兄弟ぐらいいきませんから、1人でこそこそ遊ぶような感じではなかったですよ、小学校の時は。中学校の時は漫画描いたりして、家で広げてやりましたから。小学校の時はそんな強い印象っていうのは少ないですね。

Q：みんなで遊んだりするほうが楽しい？

西角：どっちかという、みんなで遊ぶほうが好きだったですね。わりと小学校の時も学級委員長っていうんですか、そんなことやりましたから。あんまり自分では好きじゃなかったんだけど、周りからやらされたっていうような感じで、一応リーダーシップ取ってやりましたね、小学校の時は。だから、あの頃は軍隊式じゃないけど、生徒が悪いことをすると、大体、学級委員長呼んで頭殴られたり、なんか知らないけど。そんなような、なんか理不尽だとその時は思いました。なんで私が怒られなきゃいけないんだ。あなたの監督が悪いっていうことですよ。なんかそんなので、何回も怒られたことがありますね、学級委員長だからということで怒られたことがありますけど、あんなもん、やるもんじゃない。大体、投票なんだけど、「誰にする？」っていったら、大体、私が指名されてたんで。成績が良かったから、成績のいい子はそういうのになるんでしょうね。

Q：3月31日のお生まれですよ。

西角：はい。

Q：3月31日に生まれると、次の4月1日からの子のほうに行くんですかね、学年としては。

西角：当時はね。今は違うんですね。今は4月1日は大丈夫なんです。たぶん当時は4月1日だと翌年になると思ったんです、要は1年遅れて。うちの母親が言うには「おまえは本

当は4月1日だ」って言われましたよ。だから、産婆さん、病院じゃなかったんで、産婆さんと話して前日にしたっていう話を母親が、早く学校へ行かせたかったんですよ。「本当はおまえ、4月1日なんだよ」って。夜中だか、朝方か知りませんが、そのへんに生まれて、もう前日にしたというのは、母親から聞かされたんですよ。

Q：早く学校に。

西角：早く学校へ行く。そりゃ、1年遅れたら、1年違いますからね。おかげで私なんか、いつも身長も元々低かったんで、いつも前のほうですよ、前から1番目とか2番目。あの頃、1年違うとね、だいぶ違いますね。

Q：そうですね、特に小さい時は。

西角：ええ。

Q：それでも成績も良く、委員長に選ばれていたんですよ。

西角：そうですね。幼稚園も行ってないしね、私なんか。幼稚園も行ってないし、いきなり小学校へ行ったんだけど。あの頃はちょっと勉強すれば、今の学力に比べりゃ低いんでしょうけど。頭のいい子だとは、近所の人にも言われましたよね。絵を描く時に、漫画の絵ですから。これも覚えてますけど、丸描く時、私の描いた絵は大体真円に近いんだけど、難しいんですよ、丸描くの。近所の人に来て、「あ、この子ども、丸うまいわ」っていうような感じで「絶対、頭よくなるわ」とか言われたんで、それを言われたのは覚えてます。「兄ちゃん、丸描くのうまいな」とか何とか言われて、そんな感じで。今は関係あるのかどうか知らないけど、わりとだいぶ前から絵描いたりするの、器用だったんだなと思って。

## 中学生時代：笛を吹く（だんじり）

Q：ひとつ伺っていいですか。これ、20年ぐらい前に出た「ゲーム・マエストロ」っていう本のインタビューなんですよ。ここの冒頭に出てきているんですけど、「高校を卒業するまで毎年、巨大な山車の上で笛を吹いていたという。」と書いてありますね。

西角：それ、中学ですね。

Q：それは違う？

西角：中学ね、小学校じゃない。ええ、山車。

Q：だんじりですよ。

西角：ええ、だんじりです。

西角：中学校の時に吹いてましたよね。中学校の時は結構いろんなことやって覚えてるんですけど、小学校の時はあんまり。もちろん、だんじり引いてましたよ。引いたけど、その上に登ってまではやってないです。ただ引いてはいましたけどね。それはそのとおりですね。中学の時は山車の上に乗って、笛吹いてましたね。

Q：誰から、その笛の吹き方を教わったんですか。

西角：それはね、まだ先輩がいるんで、そういう教えてくれる人がいるんです。あと、それもあと、自分そのまま吹かないで、ちょっとアレンジして吹く。

Q：オリジナルじゃない？

西角：アレンジするとね、怒られるんですよ。やっぱし、伝統みたいなのあるじゃないですか。でも、こっちのほうがちよっと面白いなとかいろいろアレンジして笛の吹き方変えると、伝統がやっぱありますから、「その吹き方で吹くな」とかよく怒られましたよ。こっちのほうがいいかなと思って。

Q：マニュアルじゃなくて、手取り足取りで？

西角：そうです、そうです。

Q：もう直接。

西角：ええ。伝統、聞きながら覚えるという。ずっと伝統的。今も毎年見に行くんですけど、最近是我々の時とメロディが変わってきているんですよ。

Q：今、吹けと言われると吹けます？

西角：吹けると思いますよ。音は出る。もう、何十年も吹いてませんが、吹けると思いますよ。

Q：中学ぐらいからですかね。中学校はたぶん 1956 年から中学生ですかね、きっと。

西角：そうですね。

Q：その時には近くの中学校に行かれたんですか。

西角：はい。中学というのは大体、小学校を何校か集め、今でもそうですけど、何校か集まって中学校に、1つの中学に。私の場合、岸城（きしき）中学というところだったんですけど。距離もだいぶ遠くなりましたけど、そこに行っていましたね。

Q：どのくらい大きかったんですか。

西角：人数？

Q：人数、はい。

西角：結構多かったですよ。1クラス 45～46 人、中学って一応そうですね、今でも同窓会やってますけど 45～46 人いまして、それが 13 クラスか 14 クラスあって。13 か 14、私が 13 組だったから、もう 1 つ上にあるのかなと思うんで、大体どれくらいですかね、600 人、700 人ぐらいいたんですかね。600 人か 500 人ぐらい、それぐらいいたんですかね。ですから、3 年ですから、1,000 人以上はいますよね、1 年から 3 年までで 1,000 人。今度は人数が多くなってくる分、中学の時になったら、今の小学校みたいにトップクラスからだいぶ落ちましたね、成績も。もっと頭のいいやつがほかにもいるわけですよ、ほかの、小学校でも。だから、見掛けはやっぱり成績が落ちたっていうのがあったんですね。

## 中学生時代：地域特性

Q：地域としての特性ってあるんですか。通っていた小学校の地域と、ほかの小学校の地域と違うところは。

西角：一応うちのほうの小学校は都会っておかしいけど、街の中ですね。岸和田市の中でも一応、街、中心街の小学校だったんで、中央小学校って。ほかはもうちょっと田舎とか、海側とか、そういう都会からちょっと離れたとこの小学校から来てましたね。

Q：歩いてどのくらいだったんですか。

西角：30分、20～30分かかったと思いますね。結構、離れてましたね。小学校は5～6分で行けたんですけども、中学は30分まではかからなかったかもしれませんが、20分以上はかかりましたね。2キロあったと思います。

## 中学生時代：遊び方（漫画の貸し借り）

Q：もちろん中学校に入ると、遊び方も小学校の時とは変わってくると思うんですけども。

西角：変わりますね。

Q：どういうふうな遊びをされていたんですかね。

西角：メンコ、べったんとか、そういうのはもう全然やらなくて。あの当時はみんな、どういうふうにして遊んでたかな。中学校でみんなで遊んでたものっていうのは何だったんですかね。今みたいにそんなゲームもないし、漫画を読むか、本、漫画の本は一応共通の遊びだったかもしれないですね、中学の時は。

Q：どのような漫画とか本になってくるんですか。

西角：はやった時は、まだ戦争もの、そういうものがはやりましたね。戦争ものとか、もちろん手塚治虫の漫画なんかも、もちろん人気はあったんですけど。結構、戦争ものとか、何があったかなあ。私、よく戦争ものの漫画を見てましたね。ちょっと思い出せない。手塚治虫のと戦争ものは覚えてますけど、何だったかな。ちょっと思い出せないですね。

Q：漫画は借りてくるんですね。

西角：ええ、借りてくるんですよ。買うこともあるんですけど、大体、貸本屋で借りてきて読んでましたね。それが当時の一般的な本の読み方で。新刊買う人は少なかったような気がしますね。

Q：友達の中で貸し合ったり、そういうのはまだないですか。

西角：貸し合い、あります。大体、貸し借りはありますね。

Q：友達とですか。

西角：ええ。貸本屋で借りたやつをまた貸したり。大体 1 週間ぐらい借りますね、その間にまた貸し借りするというような、そういうような。本当は又貸しは駄目ですと言われていたんですけど、そんなの関係ないって貸してましたね。

Q：みんなの中で人気のあったものがお好きでしたか、それとも自分の好きなシリーズがあって、それは必ずしもみんなが好きなものではなかったりとか。

西角：手塚治虫系はみんな好きだったんですけど、戦争ものはね、結構マニアックというか、そんなに好きじゃなかったかもしれないですね、私だけかもしれないです。戦争ものもわりあい見てましたね。

Q：手塚治虫のどんなタイトルを見ていましたか。

西角：手塚治虫、代表的なのは「鉄腕アトム」ですよ。「アトム」以外に何かあったかな、「リボンの騎士」っていうのがあったかもしれない。あれはうちの姉も読んでたし。

Q：戦争ものはどんなタイトルですか。

西角：戦争ものは、作者はそんな有名な作者じゃないと思いますけど。要は、どっちかという史実に基づいたやつの方が好きだったんですよ、太平洋戦争のミッドウェー海戦のそういうのを、ノンフィクションのそういう漫画にしたやつを。だから、ストーリーはアメリカへの開戦は、史実は分かってるんですけど、その絵の描き方とかそういうのにわりと個性があるので、違うパターンでその作者のを見てましたね。

Q：タイトルとか覚えていますか。

西角：タイトルはちょっと。

Q：「ミッドウェー海戦」？

西角：ミッドウェー海戦っていうのは覚えてますけどね。それもほかにもいっぱいありましたよね、ガダルカナルとかそんなような戦争の。ほかの人も見てたのかな、ほかの子も見てたような気がしますけどね、その当時、戦争の本、結構人気があったような気がしますね。まだ、その頃は戦争の体験とか戦争中なんて覚えてませんから。だから、どんなも

んだらうなという興味もあって、戦争の漫画を読んできましたね。小説じゃなくて、漫画で私は見てましたね。

Q：今おっしゃったのは、僕は模型だとか、それで戦艦だとか、飛行機だとか、そういうのに興味がある、そういうわけでもないんですか。

西角：模型はね、模型あんまり作った覚えは……、ない、うーん、あんまりないですね。既製のやつでしょ？ そういうのはないけどね、自分で木を削って船を作った覚えはありますよね。家に親父、さっき言ったように大工道具があるんで、のこぎりもあるし、ノミもあるし、そういう材料は上に試し切りっていうか、作った時にいろいろ切ったやつで木材がいっぱいあったんですよ。切ったり、いろんな、そういうのをするので。だから、そういう木の材料とか、金物の材料とか、そういう材料は結構あったんで、それで船を作った覚えはありますね、自分で。プラモデルじゃなくて、木を切って、彫って、船を作った覚えはあります。動力まで載せてないかもしれませんが、形だけだと思うんですけど、それは作った覚えありますね。

## 中学生時代：遊び方（映画）

Q：映画とか、そろそろいろんな子ども向けの映画もたくさん上映される時期なんですけど、覚え、記憶とか。

西角：チャンバラものの映画はよく見ましたね。あの頃の娯楽映画っていったら、チャンバラものが多いんですよ、「赤胴鈴之助」とかね。そういうのは映画では多かったですね。

Q：例えば僕らだったら、「仮面ライダー」みたいなヒーローは、全部チャンバラで。

西角：そうです、そうです、チャンバラでしたね。ヒーローはチャンバラですよ。

Q：そろそろ「ゴジラ」は出てきていないですか。

西角：それ、ずっと後ですよ。僕、小学校の時、見た映画は大体チャンバラのあれですかね。

Q：中学校時代もずっとチャンバラですか。

西角：中学校時代もチャンバラ、まあ、見てたような気がしますね。そんなヒーローみた

いな、そういうものはなかったような気がしますね。「鉄腕アトム」の映画もなかったと思いますね。ちょっと見た覚えもないですし。時代劇の映画ものが多かった、ヒーローが多かったですね。

Q：電子工作とかも、もう始めたりしていたんですか。

西角：それは中学校の3年ぐらいの時にありましたね。それ好きなやつがいて、そいつの影響で、中学3年の頭ぐらいからですかね、始めぐらいから。中学時代は2年ぐらいの時までは笛吹いたり、漫画描いたりしてたんですよ、そういう友達。大体、友達の影響が多いですね。そういう友達とグループになって、グループって2人だけだったんですけど、漫画描いたり、戦争ものの漫画描いて、自分もまねして。そういう小説みたいなものを読んで、それでイメージをして、戦争の絵を描いたり、中学校2年ぐらいの時はね。笛は3年もやってたんで、その2年ぐらいから、だんじりの笛吹きを目指して。

3年の始めぐらいから、電子回路に目覚めまして。電子回路っていうほど、当時はなかったんですけど。ゲルマニウムラジオって、ラジオでした。ラジオを作って。ゲルマニウムですからね、ゲルマニウムが1個あって、コイルがあって、あとイヤホンと抵抗あって、アンテナ立ててラジオが聞こえるんですけど、それを作りましたね。最初はそれをやってたんですけど、あと、トランジスタを入れて、それだけだと音が小さいんですよ、ゲルマニウムって実は、音はほんとかすかに聞こえるぐらいですけども、それをもっと大きくできないかなと思って、あとトランジスタを入れれば大きくなるっていうのが本に、そういう本が出てましたから、「子供の科学」とか出てましたので、そういうのを買ってきて、それでトランジスタ入れて、増幅ですよ、そんなのをして、音を大きくして、中学校の時は聴いてましたね。

## 中学生時代：遊び方（ラジオ作り）

Q：その音が出た時はどんな感情を得られましたか？

西角：楽しいですよ。出る瞬間、出た瞬間っていうんですかね、その瞬間だけですよ。まあ、楽しいですよ、もう本当。

Q：それ、今までやってきた漫画作りとか、そういうのもずっとその時も。

西角：だから、それで漫画やめたような気がしました。漫画はね、中学校1年か2年ぐらいまでで、もう3年はずっとラジオ作るのに凝ってましたね。だから、何台も作ってる。友達にも頼まれて作ったりしてやってたんで。一般的には鉱石ラジオって、今のゲルマニ

ウムラジオっていうのが一番簡単なんですけども。トランジスタ入れて、増幅して音を大きくしたっていうのは、あんまりなかったんですね、市販でも。それを大きくして、トランジスタのを作ってましたね。だから、そういうお金は、親はいっぱいお金そんなに惜しまずにくれましたね。トランジスタとか高かったんです、昔。それ凝って、すぐ壊れやすいトランジスタで、昔のはね、ソニーのトランジスタ、もうソニーしかなかったです、単品のトランジスタなんて。それ、ハンダ付けして、ラジオ作って、聴いてましたね。

Q：ソニーのは組み立てキットなんですか、当時ののは。

西角：キットじゃない。自分で部品を買ってきて。

Q：ソニー製のトランジスタ？

西角：トランジスタはソニー製なんです、トランジスタだけがソニーなんです。そのほかはもう違う部品なんで、その部品を全部買ってきて、それで作ってましたね。大阪へ行くと市内に、こっちでいう秋葉原なんですけど、日本橋。あそこに行ったりして買っていましたね。日本橋へ行くまで電車に乗っていかなきゃいけないんですけど、それでも買って、自分で組み立ててやりましたね。

Q：近所でもトランジスタ使ってラジオを作れる中学生って話題になったこともあったんですか。友達の間では。

西角：話題にはならないけども、友達の間では結構、「ラジオ、あいつ作るんだよ」となっていて。だから、近所のおばちゃんじゃないけど、奥さんあたりが「うちのラジオも作ってくれる？」って作った覚えはありますね、頼まれて。

Q：手品師のクラブに入ったのもこの頃ですか。

西角：手品は、中学は……、高校ですね、あれ、でも。

Q：最初にラジオに、中学3年生の時に会うきっかけは何だったんですか。

西角：たぶんね、友達がやってたと思うんですよね、鉱石ラジオ。鉱石ラジオって、一番基本的なラジオですよ、それを教えてもらったのはたぶん友達だと思います。自分で組み立てたんじゃないと思う、友達から。漫画もそうですし、友達の影響が大きかったと思うよね。トランジスタもやったんだけど、それから先はもう自分で、ゲルマニウムラジオ

から、トランジスタを入れて増幅して大きくしたり、音、大きくしたりするのは、それは自分で全部。取っ掛かりはたぶん友達だったと思いますね。

Q：そこから10年、電子の世界にどんどん入っていくんですね。

西角：そうですね。電子の世界、中学、高校はそうですね。高校はアンプ、いわゆる本格、アンプですよ、真空管のアンプ作ったりしてましたけど。材料がなくて、中学の時はまだアンプじゃなくて、ラジオだけでしたね。高校になってから、あんまりラジオは作らなくなっちゃったかもしれませんけどね。

## 中学生時代：成績・高校進路

Q：高校の進路も電子に目覚めて、そちらの方向に移る感じだったんですか。

西角：高校は普通科ですよ、普通高校ですね。

Q：進学する高校ですか。

西角：進学高校でしたね。進学校、一応、進学校でしたね。

Q：そこでもやっぱりそういう電子系の科目をいっぱい取っていたんですか。

西角：電子系の科目は特に普通校でなかったんです。理科系は好きでしたね、中学校の時もそうですし。理系はわりと成績が良かったような気がしますね。

Q：中学時代から理系の科目のほうが成績が良かった？

西角：ええ。文系はあんまりよくなかったんで、ばらつきがあったのかどうか知りません。思ってた高校は入れなくて、岸和田で一番いいのは岸和田高校っていうのがあるんですけど、そこが入れなくて、私立の、岸和田市じゃなくて大阪市内の高校に、私立の高校に行きましたね。ミッション系のスクールだったんですけども。高校、だから、電車通学になったんですけど。だから、その岸和田高校に本当は行きたかったんですけど、うーん、まあ。

## 中学生時代：ラジオ作りなどの情報入手、ラジオ作り（ハンダ付け）

Q：中学の時は、まずはどうですかね。中学と高校で、例えば、先ほど「子供の科学」とおっしゃったんですけど、ラジオを作るとか、情報をどうやって、それ以外に仕入れていたんですか。

西角：本は売ってたんですよ。「子供の科学」とか「ラジオの製作」という本があったんです。今も「ラジオの製作」あるかもしれませんが。他にもあるかもしれないけど、それ買って、そこから、そのとおりにやったこともあるし、自分で変えて、トランジスタ 1 個じゃなしに 2 個付けてみたりして、2 個付けて大きくなるんじゃないか。実際大きくなるんですけど、2 個付けて大きくして。これ、イヤホンなんで、スピーカーに鳴らせないかとか、そういうような、結構自分では研究というか、本じゃなくてやった覚えはありますね。

Q：ちょっと、そのまま作っちゃうだけ、僕もそうなんですけど、そういう人もあるので、どんな工夫をされたのかなとか。ヒントなんですよ、要は、本は。

西角：そうですね。まず最初、基本はやるんですけど、ちょっと別のことをやってみたいなのというのは、昔からそういう気持ちはありましたね。だから、コンデンサーも自分で変えてみて。だから、よく壊れるんですよ。電子回路の基本的な勉強はしてませんから、いろいろ変えて作って見たら、意外と音が鳴らならないとか、我流でやってみたけどどうまくいかなかった覚えはありますね。

Q：何が一番楽しい、どういった点がラジオを作っていくことで楽しいなって感じられたんですか。

西角：音が出た時ですよ。その瞬間の楽しみのような気がしましたよね。でも、一応ラジオ聞こえたら、そのあと深夜番組って、音楽を聴いたりはしてましたけど、それはラジオ聴きたいってわけじゃない、ラジオ作って音が出る時がやっぱり一番楽しかったような気がしますね。何とも言えない、その、あれですよ。その出ない時のがっかりしたこと。

Q：そうなんですか。

西角：ええ、そうなんです。がっかりなんですけど。でも、慣れてくると、あんまりがっかりしないんですよ。これはもう絶対鳴る、今は駄目だけど次は絶対。どっか違ってると、そこ直せば必ず鳴るという自信がついてくると、あんまりがっかりしないんです。初めのうちはもうがっかりしちゃって、音が鳴らないとどうしていいんだか、もうおろおろ

してたけども、また最初から作らなきゃいけないのかなというような感じにはなりませんでしたけどね。

Q：ハンダ付けとか、多分、筐体も自分で作られたり。

西角：ラジオですか？

Q：ええ、ラジオです。

西角：ラジオは筐体って、箱はこういう石けん箱みたいな、プラスチックのこういう箱。石けん箱使ったかもしれないな。その中に部品を組み込んで。今はそれらしい箱はありますけど、その当時はなかったんで、たぶん石けん箱を使った覚えありますね。中に組み込んで、そこでラジオを作った覚えは。石けん箱は使った覚えありますね。ちょうどそういう手ごろな箱はなかったんですけど。でも、それはあとになって秋葉原、じゃない、日本橋行けば、ちゃんとそういう箱はあったんですけど、まだ、この時はそこまで分かんないところがあったので、石けん箱かなんか適当なそういう箱で作るか、あるいは自分で木で箱を作ったかもしれませんね。手作りの箱だったような気がします。

Q：先ほど家には木とか金属があったというお話をされていたので、それを使われたのになって。

西角：たぶん、木でも作ったと思いますね。ラジオの時はどうか知らないけど、高校になってアンプ作って、スピーカーやる時はもう完全に家の材料使って作りましたけどね。

Q：ハンダ付けとかって上手、下手があるじゃないですか。

西角：ありますね。

Q：どういうふうに勉強されたのか、もしくは誰に習ったのかなと思って。

西角：ハンダ付け習ったのは親父ですね。親父がハンダやってたんで教えてもらった覚えはありますね、ハンダ付けは。今みたいにそんないいハンダじゃなくて。今、ハンダなんか、あんまり使わないですけども。昔、こっち来てからハンダの時は、松やにが入ってて、そういういいハンダなんですけど、昔はそんなよく付くようなハンダじゃなくて、だいぶ苦労しましたけども。もう取っ掛かりはおやじ、ハンダ付けの仕方を教わりました。

Q：例えば、お父様にラジオを作るから、こういうことをどうやるのって聞くと、結構喜んで教えてくださったんですか。

西角：親父はラジオのことよく分かりません、ハンダ付けのことは分かったんですけど。ラジオの細かいところまでは、多分わからなかったと思います。ハンダ付けだけは親父に教わりましたね。今の子どもってハンダ付けしないんですよ。

Q：しないですよ。

西角：それは何でかっていうと、やけどしたりするからって、親が駄目だって言うんですよ。私らの時はしょっちゅうやけどしたんですけど。それすると駄目だから、親がハンダ付けを持たせないというので、というのを、私、この前、大学の人から聞きました。大学でボランティアで、大学の人が小学校のラジオ作る、そういうボランティアに行ってるらしいんですよ、同級生なんですけど。そこで「じゃあ、ハンダ付け教えてるの?」「いやいや、今は親がうるさくてしょうがなくて」、ホチキスみたいなのでパチンとやって回路を作っていくらしいんです。

## 中学生時代：メインカルチャー（漫画かラジオか野球か）

Q：中学の時の漫画とか、後半のラジオを作っていくというのはやられていて。当時の中学校の男の子のメインカルチャーっていうんですかね、何だったんですか。やっぱり漫画だったんですかね。それよりも違うものがあったんですか。

西角：漫画……。

Q：漫画とかラジオっていうのは、当時の男の子が遊んでいた遊びの中で、どういうふうな位置付けにあったものなんですかね。

西角：ラジオはあんまりポピュラーじゃない、そんな誰もみんなやってなくて。漫画はみんな読んでましたね。漫画はみんな好き。大体、借りて読んでたもんですよ。あとは音楽で流行歌っていうのがありましたから、音楽聴く、あの時はロカビリーみたいなのがはやりだした頃だから、そういうのは、音楽を聴くという趣味の子は多かったかもしれませんね。あとは……、もう中学校ぐらいになったら、もうメンコとかそういうのやりませんから。ポピュラーなんて何やったのかな。ちょっと興味……。私はそうだったけど、一般のやつらは何だったのかなと思う。今度、同窓会あったら聞いてきますわ、お前ら何やってたんだって。何やってたのかな、それより、みんなでね……。

Q：野球とかは。

西角：野球、草野球はやってましたね、空き地がありましたから。でも、それは小学校が多くて、中学になると草野球もやってなかったですよ。

Q：プロ野球の球場、近いですよ、大阪の。大阪球場とか近いんですよ。

西角：大阪球場。岸和田はちょっと離れてますけど。

Q：海沿いですか。

西角：ええ。電車で30分ぐらい。難波ですよ、電車で30分ぐらいですから。

Q：あと関西だと藤井寺とか日生球場。

西角：そうですね。大阪球場はよく見に行ったり、近いから。

Q：ちょうど電車の終点ですよ。当時の男の子の娯楽といえば、野球がかなりポピュラーだったように思いますが？

西角：野球の専門の学校でクラブやってる人は野球をやってたけど、普通は、野球は。小学校の時は確かに草野球やってましたけど、中学入るともう野球やる人はクラブに入っていて、草野球はそんなにはやらなかったですよ。だから、中学の時、みんな何を、みんなして、カルチャーは何のカルチャーだったのか。今、思い出してるんだけど、なかなか思い出せないですね。

## 中学生時代：部活

Q：西角さんはどんな部活動をやられていたんでしょうか。

西角：中学ですか。

Q：はい、中学。

西角：中学は科学部にいましたかね。

Q：化学ではなくて、科学ですか？

西角：化学じゃなくて、一般的な科学ですね。

Q：やっぱり理系を優先された。

西角：理系ですね。そこで、あ、そこでラジオを覚えたのかもしれないね、もしかしたら。それは2年ぐらいから入りましたね、1年の時は何もクラブ入ってなくて。1年の時も担任の先生がうちの、中学に入った時の1年の先生はうちの姉の受け持ったあれなんで、私のほうもよく知ってたから、いきなり「おまえ、学級委員長やれ」とか言われて、知ってるもんだから。1年は学級委員長で苦労しましたよ、なんかそんな覚えありましたけど。だから、クラブ入ってなかった、2年ぐらいから科学部入って、ああ、そこでラジオ覚えたかもしれない。ちょっと……。友達じゃなくて、クラブでラジオ覚えたかもしれませんね。

Q：顧問の先生が教えられて。

西角：あ、そうですね。

Q：手ほどきをして、あと自分で。

西角：はい、はい。ただ、その学科クラブはそんなに熱心じゃなくて、あんまり行った覚えが、それほど熱心にしてる覚えはなかったですね。でも、自分で家で作ってるのは覚えてるけど、学校で何やってたかっていうのは、ちょっと覚えてないですね。木を植えたり、草花植えたり、そういうのも学科部のほうだったんで。草花育てたり、そんなような活動をしてましたね。ちょっとあんまり熱心にクラブへ入ってみんなと一緒にやるような、そういう性格じゃなかったかもしれないんで、そんなに熱心なクラブ活動をした覚えはないですね。

Q：ラジオをやられてから、漫画を描かなくなったという。

西角：そうですね。

## 中学生時代：漫画をやめて、ラジオ作りに

Q：もうそれ以後、漫画というのはもう描かなくなったんですか。

西角：描かなかったですね。一時は凝って。結構わーっと盛り上がったことは盛り上がったんですけど。通信教育の漫画があるんですよ、そういうツール。そこまで一応申し込んで、漫画家になるためにとか、いろんな本がありましてね。あと、こういうペンを、専門的なカブラペンとか、G ペンとかそういうペンがいろいろあるんですよ。今はパソコンなんかで作るんだけど、漫画家はそういうペンを10種類ぐらいそろえなきゃ駄目だということで、ペンを全部そろえて。ハケだとか、消しゴムもそうだけど、一式そういうのをそろえて、通信教育とか通信学校ですよ、それは1年ぐらいかな、半年ぐらいやりましたね。本部はもちろん東京にあるんですけど、自分に題材を与えられて、そこに絵を描いて、投稿の添削して。どっちかという、詐欺みたいなもんですよ、名前だけは手塚先生とかから借りてるんでしょうけど、実際やってるのは普通の人やってるんでしょうけど。でも、そんなにうまくならないしと思って、半年ぐらいでやめた覚えがありますね。絵の好きな友達がいたんですけど、そいつから影響受けたんです。そいつも一緒に「もう、やめようか」ってやめたような覚えがありましたね。もう、そこから続けないで。だから中学2年の1年間ぐらいやりましたが、あとはやめましたね。

Q：勝手なイメージだと、小学校の時はみんなで外で遊んで、中学になると近所周りに2～3人で一緒にいたという感じですか。

西角：そうですね。

Q：そうでもないんですか。

西角：いや、そのとおりですね。小学校の時はみんなで表でメンコしたりするけど、中学ぐらいになるとあんまり大勢で遊ばなくて、仲のいい友達と2人で遊んだり。ラジオ作ってる時はほとんど友達いなくて、1人で作ってたような感じですね。だから友達からの影響じゃなくて、もしかしてそのクラブの影響だったかもしれないです。ラジオ作る時は何人かでつるんで作ってはいなかったですね。できたら友達には見せびらかしてるっていうか、見せて、こんなのできたぞって聴かせたりはしてましたけど、近所の子どもに。あんまり一緒になって作ったという覚えはないですね。その当時、ラジオ作ってるの、中学で作るというのは珍しかったと思うんですよ。

Q：漫画の通信教育とかラジオの部品を買うとか、そういうところも全く自由にわりとやられていたんですね。

西角：そうですね。親父は結構その辺、お金、こういうのを買うって言ったら、「何買う？」

とかあんまり言わずにすぐお金出して、小遣いは結構ふんだんにもらっていたような気がしましたね。自分で好きなものを日本橋行って買ったり。中学か高校か知りませんが、一時そういう、日本橋へ行くとジャンク、当時の進駐軍じゃないけど、アメリカの軍隊の通信機だとかそういうのを売ってるんですよ、安く。ジャンクものですから、軍の払い下げのアメリカの。それを何に使うか分からないんだけど、取りあえず部品だけ買ってきて、いわゆるそういうコレクションみたいな感じですよ。バリコンとか、コンデンサーとかそういうのを、使い道はないんだけど、取りあえず安いから買おうと買って家でよく眺めてました。使い方は分かんないから、取りあえずそんなのを買ってきて置いていたような覚えがありますね、日本橋へ行って。実際、それ、ジャンクで売ってて、専門に使うとなると結構高い知識が要るんで、取りあえず分かんないから、そのジャンクを買ってきて、家に置いてて、これ何だろうなと思いつつ集めて、そういうコレクションをした覚えがありますね。

Q：行きつけの店とかあったんですか、中古時代の。

西角：日本橋ですか。ありました、ありました。大体、大人が多い、子どもはあんまり行かなかったんで、その人と仲良くなって、こんな。当時の憧れはトランシーバーだったんですよ。トランシーバーってこういう通信機ですがね。あれで無線会話するのを作りたいと思って。結局、中学じゃできなかったんですけど、その辺の部品を、いわゆる進駐軍の、アメリカのトランシーバーの中古が置いてある。もちろん動かないですよ、もうジャンクですから。それの中の部品だけを取り出してもらって、「兄ちゃん、これ、どうや」とか。値段安いから、その頃、やっぱ10円か20円か分かりませんが、そんな値段でしょ、買ったとか言っても。何に使えるか分かんないんだけど、そんなもん何もできないんだけど、いつか何かで組み合わせれば使えるかなと思って家に置いて、箱の中に入れて。箱いっぱいぐらい、ジャンクありましたよね。結局、それはごみになったと思いますけどね、何も使えないんで。だから、そういうのを買っておくと、何か使えるような気がして買ってきたんですね。